

## 世田谷村日記

石山修武

議だ。十八時頃世田谷村に戻る。屋上菜園に上り、クワをふるう。  
二十三時就寝。

四月二十八日

五時四十五分起床。今日は富士嶺聖徳寺の現場行。久し振りに群馬の左官職達、森田親子、中沢さん等に会える。内部の壁の色はうまく出せているだろうか。吊り構造の仮サポートを外す頃合いをそろそろ決めないと。世田谷村二期工事の詳細をつめてゆくのも急ぎたい。二期工事に関しては色んな実験を試みるが、その成果を進行中のプロジェクトに反映させよう。銅版画の事はもう忘れた。

十年くらい続く建築現場に棲み暮らしたら、どんなに幸福だろうか。ブノンペン・ウナロム寺院の「ひろしまハウス」は、あの十倍くらいスケールだったら、いずれ死ぬ迄の数年を賭けても良かったが、少々大きさが足りぬ。公共建築や商業建築ではそんな事は発生しようが無い。やはり、ある種の宗教的建築か、個人に類する、時代を超えた考えの持主を依頼主にするしかない。そんな依頼主と巡り会える戦略を建ててはいけないな。

十三時前、聖徳寺現場。良い色が出ていた、老いたりとはいえず流石森田のオヤジさんはカンがいい。中沢さんも親子で仕事をしてお下さっていた。皆、二代目が成長しているんだ。気心の知れた職人さんとの仕事は間違いが少ない。外構を上手に仕上げたい。内は大方良い。仕上がると、外の風景と内が相互貫入する筈なので、その息使いをスムーズに流さなければ。十五時半名残は尽きぬが現場を去る。現場にいるといろんな事が考えられるのが不思議だ。

四月二十九日

六時十分起床。午前中は世田谷村にて過す。菜園に種をまいたり、小さなスケッチをしたりで遊んだ。

十三時研究室。幾つかの打合わせ。十五時馬場さん夫妻来室。十六時五反田へ。十七時トモコーポレーション。十九時打合わせ。夕食後、青物横丁品川寺へ。アチャン・光男・カヴェサコ師と会う。猪苗代にメディテーション・センター設立の可能性についての試みがスタートされた様に感じられるが、まだ良くわからぬ事が多い。